

1 学校教育目標			
(1)【た】高い志と誠実さを持ち、世のため人のために貢献できる資質・能力を育成する。 (2)【ま】真面目さとチャレンジ精神を持ち、問題や課題に立ち向かう資質・能力を育成する。 (3)【な】仲間とともに切磋琢磨し、豊かな知性と感性を磨き続ける資質・能力を育成する。			
2 本年度の重点目標			
(1)教育スローガン:「健康・礼儀・努力・継続」～何事にも一生懸命頑張る玉高生・玉附生～ 「健康」:健やかな体、豊かな心(読書)、確かな学力 「礼儀」:礼に始まって礼に終わる(校門一礼)、挨拶、時間厳守、掃除、感謝 「努力」:努力に勝る天才はなし 目標達成、感動、笑顔 「継続」:継続は力なり 当たり前のことを当たり前 (2)教育活動取組のテーマ:「夢実現:未来への挑戦」～知性と感性を備えた若駒たれ～ 【至誠】ものごとを「肯定」的に捉え、よりよい世界のあり方を「想像」しながらその実現に向けて「貢献」しようとする「誠実さ」を備えさせる取組を行う。 【剛健】「挑戦」することをおそれず、試行錯誤しながら取組を「持続」し、限界「突破」に向けて最後までやり抜こうとする「たくましさ」を備えさせる取組を行う。 【進取】ものごとの本質を「探究」するために、他者と「協働」しながら課題に取り組み、新たな解決策を「創造」しようとする「先取性」を備えさせる取組を行う。 (3)玉名高校生に身につけさせたい「9つの資質・能力」			
校訓		至誠 (誠実さ)	剛健 (たくましさ)
資質・能力		進取 (先進性)	
知識・技能		① 肯定力	② 挑戦力
思考力・判断力・表現力等		③ 探究力	④ 想像力
学びに向かう力、人間性等		⑤ 持続力	⑥ 協働力
		⑦ 貢献力	⑧ 突破力
			⑨ 創造力

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	業務改善・働き方改革	生徒と向き合う時間の確保	校務の削減や効率化が進み、職員の時間外勤務時間が、法令で定められた上限の範囲内となった状態を目指す。	①ICTの活用等による業務の効率化をさらに進める。 ②時間外勤務の状況等を衛生委員会の機能を強化しつつ検証し、業務改善や業務分担を進める。	B	【成果】各種資料をデータで共有することでペーパーレス、資料印刷時間削減につなげた。全職員の時間外勤務時間の月平均は、法令で定められた上限の範囲を下回ったものの、長時間勤務の実態のある職員が固定化している。 【課題】校務の効率化をととした業務改善に継続して取り組む必要がある。
	安心・安全な学校づくりの推進	安全点検の実施と改善	各学期に1回、教室や施設等の安全点検を実施し、点検率100%の状態を目指す。	①学校安全担当が立案し全職員で取り組む。 ②担任、教科担当者を中心に、生徒の安全意識を高める取組を進める。	B	【成果】学期に1回の安全点検において点検率1学期77%、2学期は96%であった。 【課題】次年度以降の大規模改修工事にも対応し点検率100%を目指す。

学力向上	確かな学力の養成と授業の充実	新学習指導要領の主旨と新しい学力観に沿った授業力の向上	教科横断的な授業が、効果的に実践された状態を目指し、生徒の興味関心を引き出す。	①単元配列表や年間指導計画表を作成し、学期または年度末に振り返る。 ②教科主任会および教育課程検討委員会を活用して、新教育課程が有機的に実践されているか、学習効果の検証を行う。 ③授業アンケートから生徒の意見をすいあげ、より主体的な授業改善を図る。	B	【成果】新学習指導要領に則り、工夫された授業実践が行われた。 【課題】①職員研修で提示された単元配列表の確認を徹底する必要がある。 【成果】教育課程検討委員会を定期的に行うことができた。教育活動の中で気づいた点を協議し、よりよい運用へつながる建設的な話し合いができた。 【課題】③授業アンケートからの考察を、教科会や各学年における学力検討会でさらに活用する必要がある。
	個に応じた学習指導	習熟度別授業の工夫と上位層を伸ばす授業の充実	学力に応じた効果的な授業が展開され、全ての生徒の学力が確実に向上している状態を目指す。また、個別指導を深化させる。	①習熟度別授業を実施する教科・科目を増やし、より個々の学力に応じた授業を展開する。 ②生徒が自身の学力に応じた課題を、自ら選択でき、困り感やつまづきを感じることがないような学習課題や支援の方法を研究する。	B	【成果】①個に応じた指導を目指して、習熟度別授業が展開された。各教科で通常の授業以外で学力向上を図るため、週末課題等が出された。 【課題】②学力に合った課題を選別するまでは至っていない。提出や取組状況など個人差が大きい。
キャリア教育(進路指導)	進路志望に応じた学力の向上	コースの特性を生かした教育活動の充実	生徒の進路志望に合わせた学力の向上と進路目標実現を目指す。	①学年集会やLHRを活用して、生徒たちの基礎学力の確立に努めるとともに、個に応じた進路学習を進める。 ②文系・理系および特進クラスそれぞれの特性を生かした教科指導および教育活動を行う。	A	【成果】学年集会や保護者会等で進路指導部の方針を伝え、個人面談や三者面談でその方針に沿って各担任が学習指導・進路指導を行い、努力目標の共有を図ることができた。 【課題】個々に応じた学習支援及び進路指導の充実を図る。
	進路意識の高揚	生徒の進路意識を具体化するための指導の充実	生徒がより広い視野で自分の進路を考え、具体的な勤労観や職業観を持つとともに	①進路指導部でキャリア教育講演会、インターンシップ、若駒キャリア塾(職業	A	【成果】キャリア教育の3つの柱(キャリア教育講演会、若駒キャリア塾、一日若駒大学)において、生徒たちのニーズに応

			に、大学での学びに関する理解を深め、進路意欲が高まった状態を目指す。社会の動きに関心を持たせるといったキャリア教育を目指す。	別講話)等を企画・実施する。 ②進路指導部で、一日若駒大学(出張講義)等を企画・実施する。 ③進路指導部で各学年のニーズに応じた行事を企画する。		じた講師の選定に努力し、生徒たちの将来に対する考えを深めることができた。 【課題】インターシップ及び体験学習への生徒の参加を増加させる。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	交通安全意識の励行	交通ルール、交通マナーを遵守し、無事故、無違反の状態を目指す。	①通学手段別の集会を適宜、実施する。②交通安全を確保するため講習会を実施する。	B	【成果】現時点で、バイク通学生集会を6回、自転車通学生集会を4回実施して交通安全、事故防止の啓発を行うことができた。 【課題】事故が起こる前の未然の取り組みが必要である。交通安全講習会については、3学期に実施予定である。
	生徒会活動・部活動の活性化	学校行事の創意工夫と部活動の活性化	生徒の意見や思いを尊重しつつ、現状に即した適切かつ主体的な学校行事が実施された状態を目指す。また、活動指針に沿った部活動が計画的に実施された状態を目指す。	①月2回程度生徒会スタッフ間で現状報告と情報共有を実施する。 ②校外で生徒会が取り組む行事を企画する。 ③各顧問との情報交換を定期的に行いながら活動しやすい環境を整える。	B	【成果】生徒会を中心にした学校行事の企画運営を活発に実施することができた。 【課題】部活動については、計画提出義務を設けなかったため、計画如何の把握は出来ていない状況である。下校時間を守れていない現状が見受けられた。
人権教育の推進	推進体制の機能強化と研修の充実	基本的認識の深化および啓発の充実	職員の人権教育に対する認識を深め、生徒が差別を見抜き、差別を許さず、差別をなくす意志と実践力の育成を目指す。	①人権教育校内研修全員参加により、職員間の共通認識の徹底を図る。 ②人権教育推進委員会を通じて生徒・職員に必要な発信を適時に行う。 ③保護者会等での保護者への啓発を図る。	A	【成果】校内研修を計画どおりに実施し職員の共通認識が徹底した。校長のイニシアティブの下、人権教育推進委員会を中心として必要な発信を適時に行った。 【課題】保護者会等での保護者への啓発を十分に行う事ができなかった。

	命を大切にする心を育む指導	授業の充実	人権教育LHR特設授業の充実と、人権教育の視点を備えた各教科の授業が実践された状態を目指す。	①特設授業についてICT活用を推進し、充実を図る。 ②生徒への配慮事項等について、職員間で共通理解を図る。 ③人権教育推進委員会を中心に全教科領域で取り組む。	A	【成果】人権についての配慮事項について朝会、HR、全校集会等で職員・生徒間で共通理解を図ることができた。道徳の授業や人権 HR について、中高職員で研修を実施し、6年間の段階的な授業計画を立てることができた。 【課題】最新の人権課題について、全教科領域での取り組みが不十分だった。
いじめの防止等	いじめの未然防止と早期発見・迅速かつ適切な対応	生徒・職員の意識の高揚	いじめ防止基本方針等の理解促進と、心のきずなを深める月間をはじめ、年間を通じた啓発活動が充実した状態を目指す。	①「心のアンケート」の年3回実施や、日頃のコミュニケーションを通じていじめの早期発見・迅速な対応に努める。 ②特別支援教育・生徒支援委員会等を活用して、職員研修の充実を図る。	B	【成果】年度初めの職員研修やいじめ防止等対策委員会を通じていじめ問題や生徒に対する理解を深めることができた。「心のアンケート」等によるいじめ防止についての取り組みも担任・学年と連携し、迅速に情報収集し対応することができた。 【課題】法律の定義にもとづくいじめの捉え方について、さらなる研修が必要である。
	生徒理解の推進	組織的な生徒支援	関係職員による生徒情報の共有と支援策の検討会を開催する。教育相談活動が適正に行われるよう、職員への研修や情報提供を行う。	①特別支援教育・生徒支援委員会を定期に開催し、情報の集約を適正に行う。 ②担任面談の時間を確保する。 ③SC、SSWの活用方法を周知し、効果的な運用となるようコーディネートする。	A	【成果】定期的に委員会を開き、職員間で生徒に関する情報を共有することができた。適宜SC、SSWの活用が行われた。各学年会や健康保健部会で生徒の情報を集約し、的確な支援につなげた。特別に配慮を要する生徒への支援方法を校内の内規として整備することができた。 【課題】担任面談の時間を十分に確保することができなかった。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	育友会との連携	育友会総会・学校行事での連携の充実	育友会と行事の連携についてしっかりと話し合い、円滑な運営と協力態勢を築く。	①育友会総会、体育祭、若駒祭、小岱山一周大会での協力を進める。 ②育友会と協力して行う学校行事について生徒や保護者の声を育友	B	【成果】①すべての行事で連絡を密にとり、互いに協力することができた。保護者間で連絡体制を組まれ、学校で行っていた集計作業や連絡を減らしていただいた。 ②現在2回発行されており、工夫され、保

				会だよりに掲載していただく。		護者・生徒の声を掲載されている。
	開かれた学校づくり	関係機関との連携	総合型コミュニティ・スクールをはじめ、様々な関係機関との連携により、本校の魅力化等に向けて、活発な議論が行われる状態を目指す。	①年間2回以上、学校運営協議会を開催し、各委員から、幅広く意見を伺い、学校運営に活かす。 ②地元自治体(玉名市)との連携を強化する。 ③上級学校(大学等)との連携を強化する。	B	【成果】「玉名市内高校まつり」への参加や本校の探究活動への協力体制など玉名市との連携が深化した。また、「若駒大学」に京都大学をはじめ新規で7大学から講師を派遣いただき、大学との連携が進んだ。 【課題】探究活動を柱とした玉名市や熊本大学等との連携を強化しながら、業務の効率化をとおした負担感の軽減にも取り組む必要がある。
健康 保健 指導	健全な心身の育成	健康に関する意識の高揚と健康診断後の早期受診指導	心身の健康に関する意識を高め、生活習慣等の行動の変容を目指す。	①生徒の心身の状況等の情報を職員間で共有する ②外部講師等を活用した講演会を開催する。 ③保健だよりや行事での情報発信、啓発し受診を促す。	A	【成果】学年会、生徒支援委員会等で生徒の情報共有を行った。講演会を計画どおり実施した。健康診断結果をすぐる配信にし、受診を勧めることができた。 【課題】生徒の情報共有を更に深め、生徒理解、対応を組織でより連携して行う必要がある。
	環境教育の推進	学校版ISOの取組と環境美化活動の推進	環境週間や環境美化への取組が徹底し、ICT活用によるペーパーレス化を進める。	①学校ISOを策定し、周知する。 ②美化委員会を中心に美化チェック活動を実施し、校内の環境美化に対する取組を向上する。	A	【成果】美化委員と保健委員で役割分担しながら美化チェックを実施した。今年度は環境に配慮し、ペーパーレスで調査を実施した。生徒が主体的に学校版ISOに取り組み、環境美化活動を推進することができた。 【課題】生徒が掃除の開始時間に遅れる時があった。職員が掃除監督につくことができない時があった。

新しい 学びの 推進	言語力向 上および 探究的活 動の充実	読書活動の推進 校舎改築に伴う 計画・準備・実施	ICTを活用し た図書館情報 の配信を行 い、多くの生徒 が利用してい る状態を目指 す。 校舎改築に伴 う計画・準備・ 実施をスムー ズに行う。	①図書館蔵書 検索サービス 「カーリル」の 活用を進め る。「考人」お よび新書案内 の Classroom での配信等 を行う。 ②図書館終 礼、朝読書 を行う。 ③事務と連携 を取り、計画 的な話し合い を持つ。	B	【成果】 ①カーリルの活用 に関しては、前年度 より生徒による活用 が見られた。「考人」 の発行数が例年より 少なく、classroom での配信を行うこと ができなかった。 ②図書館終礼、朝 読書は例年通りに 実施することができ た。 ③大規模な引っ越 しであったが、事務 の協力で行うこと ができた。 【課題】 考人の発行回数が 例年より少なかった ので、計画通りに 発行し、また、 classroom等も上手 く活用していきたい。
		総合的な探究の 時間を中心とし た、学校教育活 動全般における 探究的活動の展 開	身近な社会課 題に関する探 究に取り組 み、課題設定・ 情報収集・整 理分析・まとめ 表現というプロ セスを通して、 主体的・協働 的な態度、問 題解決能力、 およびプレゼ ンテーション能 力が身につい た状態を目指 す。	①探究活動 の基礎を学ん だ後、グルー プ別の課題探 究活動から個 人による探究 活動へと研究 の深化を図 る。 ②プレゼン テーションや論 文などから優 れた研究を選 び、外部のコ ンクール等に 出品する。 ③「玉名み らい塾」の取 組みを深化さ せる。	A	【成果】 ①高校1年はグル ープで、高校2年 生は個人での探 究活動を行うこ とができた。 ②③玉名市役所 や熊本大学と連 携し、助言等 をもらいなが ら探究活動を 深めることが できた生徒が いた。 【課題】 ①現在探究の テーマを自由 に設定させて いるが、探究 自体を外部と 連携しながら 行う工夫の 検討が必要 である。 ②外部コン クールへの 出品に関 する業務 の負担が 大きい。 組織的に 行う工夫 の検討が 必要である。

	ICTを利用した学習活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器管理 ・ICTの先端的な利活用研究の推進および新学習指導要領の円滑な実施 ・情報モラル 	生徒・職員が利用する機器(すぐる一を含む)について、いつでもどこでも利用できる体制を整えることを目指す。職員の情報活用能力が向上し、ICTを活用することで生徒が効果的に「主体的・対話的で深い学び」が実現された状態を目指す。	①定期的な職員研修を実施する。(デジタル採点・Miroの普及) ②デジタル採点を普及させ、得られたデータを生徒の学力向上や授業改善に活かす。 ③学習活動における「習得」の場面でのICTの積極的な活用を進める。 ④学習活動における「活用」「探究」の場面を重視した授業改善を図る。 ⑤ICT機器の利用時には、利用者・管理担当者間で事前に連携を図り、スムーズに使用できるようにする。 ⑥ICT機器の故障・破損時にICT支援員と協力し、代替機等の準備により継続して利用できるようにする。	B	【成果】 ①職員研修及び生徒向けの情報モラル講演等を実施することができた。 ②デジタル採点の使用率は、定期考査を作成している先生方の8割以上が「百問繚乱」を使用されているため、業務改善等につながっている。 ③④授業や家庭学習でのchromebookの使用頻度が確実に増え、様々な学びに活用されている。 【課題】 ⑤⑥chromebookの導入から数年たっているため、故障・破損の数がかなり増えてきている。代替機等が足りない可能性がある現状もあるため、早めに改善策を考える必要がある。
中高一貫教育の推進	6年間を通じた中高一貫教育指導の充実	中高一貫教育校としてのグランドデザインの構想	スクール・ミッションやスクール・ポリシーについて共通理解が深まり、中高の全教職員が協働して、6年間または3年間で生徒を育成する指導体制が確立された状態を目指す。	①日常的に「9つの資質・能力」ルーブリック表の活用を推進していく。 ②中高それぞれの進路検討会等への校種を超えた職員の参加を促す。	B	【成果】 中・高相互の授業見学の時間を設定したり、中・高合同での「中高一貫教育に関する職員研修」を実施したりして課題の共有を図り、指導体制について検討が進んでいる。 【課題】 中高の学習面での連携をさらに深化し、附属中学校で培った知識やスキルを高校で円滑に活用できる支援体制構築が必要である。

	進路希望に応じた学力の向上	個別に最適化された学びと協働的な学びの一体的推進	生徒一人一人の学習到達状況や学習習慣の状況を全職員で共有し、学習支援に効果的に活かすことで、進路志望が実現された状態を目指す。	学力検討会を実施することで、情報共有を図り、個別最適化された学びと協働的な学びを一体的に推進するための具体策について検討する。	B	【成果】模擬試験の結果等を用いた各学年での学力検討会は、生徒の多様な学習スタイルに適応し、協力と連携を重視した教育手法を学ぶ機会となった。 【課題】観点別評価により各生徒の能力や学習の進捗状況を評価し、適切なフィードバックを提供しなければならない。
--	---------------	--------------------------	---	---	---	---

4 学校関係者評価

- ・評価項目が多すぎるのではないか。
- ・玉名高校が教職員にとって働きたいと思えるような職場環境になっているか、オリジナルの働き方を提案してはどうか。
- ・バイク事故が起こっているということで、他校では自動車学校での教習を受けてバイク通学を許可しているそうである。玉名高校ではないのか。自転車も含めて、交通ルールの意識の高揚を図るための機会を設定できると良いのではないか。
- ・玉名高校に入学して良かったという問いに対して否定的な回答をした生徒にその理由を聞くと良いのではないか。改善に必要なことだと思う。
- ・部活動に関して、成績だけで評価するのではなく、その競技が好きだから入部して続けているという生徒のことも大切にしてほしい。
- ・部活動の成績も含めて、保護者や外部の方々にもっと玉名高校のことを知ってもらえるよう、知らせ方を工夫すると良い。

5 総合評価

本年度の本校教育スローガンは『健康・礼儀・努力・継続』～何事にも一生懸命頑張る玉高生』とした。

今年度の学校評価表における各項目(21項目)の評価はA:8項目、B:13項目、C:0項目、D:0項目という結果であった。また、12月に実施した生徒・保護者・職員の学校評価アンケート及び2月に開催した学校運営協議会における学校関係者評価においては概ね高い評価を得ることができた。今後も持続可能な開発目標に貢献し、日本や世界の様々な分野で活躍できるグローバル人材や地域社会の発展をけん引できるリーダーの育成を目指し、県北地域の進学拠点校として生徒や保護者、地域から信頼される学校づくりを推進したい。

学校行事を制約のない形態で実施することができるようになって2年目の本年度は、ただ単にコロナ禍以前に戻すだけでなく、さらなる改善を進めている。学習指導に関して、生徒対象のアンケートでは学習指導に対する肯定的な意見が昨年度より2.3ポイント増えて91.1%であった。また、進路指導に関しても各種講演会の実施、個に応じたきめ細やかな進路指導体制の構築、多くの教職員による進路検討会の実施など生徒、保護者及び職員からの評価が高かった。

併設型中高一貫教育校として、本年度、4回にわたり、中高の全職員で、特に教科指導、総合的な探究(学習)、道徳・人権教育、そして進路指導について協議を持ち、課題を共有し、次年度の改善につながる提言をすることができた。

6 次年度への課題・改善方策

- ・業務の削減や効率化を推進し、全職員の時間外勤務時間の月平均は法定時間を下回っているが、長時間勤務の削減に向け、引き続き業務改善に努める。
- ・中高一貫のシラバスの作成や、個に応じたさらに効果的な指導の在り方について継続して取り組む。
- ・外部機関とも連携して生徒の交通安全意識の高揚を図り、事故の未然防止に取り組む。
- ・部活動数の適正化に向け引き続き検討を行う。
- ・保護者や地域に向けた学校情報の発信について改善を進める。
- ・「本校に入学して・入学させて良かった」に対する生徒及び保護者の肯定的回答が100%となるよう、個に応じたきめ細やかな支援や指導及び保護者への適切な情報提供に取り組む。